

1. これまでの講義で言いたかったこと&今回の講義のポイント(p237-p238)

- ・ 司牧について語った理由…2つある
(1)ユダヤ・キリスト教的道徳などというものは存在しないことを示したかったから。
(2)近代の西洋社会において、宗教と政治のあいだには関係はあるが、その関係は主として教会と国家のあいだではなく、むしろ司牧と統治のあいだで働くものだとすることを示したかったから。
→近代ヨーロッパにおいては、教皇や皇帝が根本的な問題ではない。
→フランス語でも他の言語でも同じ一つの名詞の恩恵に与っている、あの二人の人物
代理執行者[大臣・聖職者]
- ・ 本当の問題…この代理執行者という用語の曖昧さにある。
- ・ これまで示したこと…司牧の技術や手続きのうちの根本的な諸要素についてだけ。
→司牧を特徴づける様々な技術・手続きからなる総体に、ギリシア神父たちが一つの名を与えている。
=魂のオイコノミア
(※アリストテレスの時代：家政=オイコノミア→司牧権力の発展後：キリスト教世界全体を指す)
↓なぜ…??
- ・ 今回の講義のポイント…オイコノミアという概念が、16-17世紀に被った第二の変異がどのようなものだったかを示したい。

2. 操行という語・司牧の危機(p239-p246)

- ・ 操行という語…2つの物事を指している。
(1)操り誘導するという活動=操導
(2)人が自己操導するやりかた(態度・品行)
- ・ 操行という概念…キリスト教的司牧が西洋社会に導入した根本的な要素の1つ
- ・ 司牧の危機…人々はキリスト教化されても長い間、司牧の課す義務に素直に従わずにいた。
↓なぜ??異端をみていくのか??
司牧という領域自体において起こりえた抵抗の諸点、攻撃や反撃の形式のいくつかを探求したいから。
↓
- ・ 異端の動き…司牧が人間たちの操行なるものを目標とする権力だとすると、これと相関するものとしてこの司牧的権力と同じく特有ないくつかの運動が出現したのでは?
=抵抗、服従拒否など。
例) 他のやり方で操導されたい、他の操導者に操導されたい…
→司牧の歴史的特異性に対応するものとして、操行上の拒否・抵抗の特有性がありはしなかったのか?
↓それをみていく。
- ・ (1)第1の指摘：司牧に対する逆向きの運動があったと前提におくこと…司牧自体も、何ものかに対する反動として形成された。
- ・ (2)第2の指摘：操行上の反乱には特有性がある…操行上の反乱は、主権を行使する権力に対する政治的反乱とも、搾取を確保・保障する権力に対する経済的反乱とも区別される。
例) 最大の反乱=ルターによるもの→実は、他の衝突・問題と結びついている。
女性修道院で起きた反乱=女性の地位問題と結びついている。

博士と牧者の対立＝文化的な上下差の問題に結びついている。

→私たちは誰に操導されることを受け入れるか？私たちはどのようなしかたで操導されたいか？何に向かって操導されたいか？これが、操行上の抵抗・反乱は特有なものだが自律的ではないという第二の指摘。

- ・ (3)第三の指摘：操行上の反乱が、宗教的形式においては司牧に結びついている…17世紀末から18世紀初頭にかけての時期以降、司牧的機能の多くが統治性の行使において引き継がれ、統治もまた人間たちの操行を引き受けようとし始める。それ以降、操行に関する衝突は宗教的制度の側よりも政治的制度の側ではるかに多く起こるようになる。

例)

①戦争：

長い間、戦争をする人間は、多かれ少なかれ本人の意思に基づいてその職に就いていた。

徴兵には、抵抗・拒否・脱走の余地があった。

↓戦争が1つの倫理に（良い市民なるものの振る舞い）になってからは…

兵士であることが1つの操行（政治的操行・道徳的操行）に。

兵士であることが、運命・職業で語れなくなった。

服従拒否としての脱走、という概念が出てくる。

②秘密結社：

18世紀…宗教的反体制に近い形式

↓

19世紀…政治的要素で構成されるようになる。

＝構成員が、別のしかたで、別の人間たちによって、社会の示す公式の統治性の提示する目標とは別な目標に向けて操導されるようになる。

③医学：

司牧は大部分が医学に関する知・制度・実践を通じて展開された。

医学は、操行上の反乱を多く引き起こしている。

医学を端的に拒否するのは、いくつかの宗教グループにおいて非常に頻繁に行われている。

→宗教的反体制運動がどのようにして医学的操行上の抵抗と結びついてきたのかが、ここにみてとれる。

3. 反操行という語(p248-p249)

- ・ 抵抗、拒否、反乱などと呼んだもの
→どのように表すか??
- ・ 操行上の「反乱」…「反乱」という単語は、散漫で柔らかい形式の抵抗を表すには明確すぎ、強すぎる。
- ・ 不服従…弱すぎる！
- ・ 反体制…この単語を使うなら、舌を抜かれたほうがマシ！！
ソビエト連邦において「反体制」と呼ばれているものは、抵抗・拒否の形式を表すもの。
→この類の現象にあまりに局限されて用いられているため、不都合なく用いることはできない。
↓そこで、新しい語を提案したい。
- ・ 「反操行」…他の者たちを操導するために作動させられる諸手法に抗する闘争という意味
「反体制」からは、「反体制派」が生じる。
「反操行」であれば、これを回避できるのではないか？

→しかしかの者を反体制派として神聖化することなく、政治や権力関係という非常に一般的な領域において実際にこれこれの者が行動するやりかたにおける構成要素を分析することがおそらく可能になる。

4. 中世における反操行(p249-p263)

- ・ (1)司牧の制度化
- ・ (2)聖職者・一般信徒を対置する二項構造の形成
- ・ (3)すでに知られていた司牧的实践に、司法モデルが導入されたこと
→贖罪システムの出現=教会の中に司法モデルが浸透してきたことを意味する。これが、反司牧闘争の大きな理由の一つになっている。

↓

純粋に教義の水準でもみられる。

例) ウィクリフ、フスの教会論/ 神秘主義

↓

それらから、中世における反操行の主要な形式を5つみていく。

- ・ (1)修徳主義：特徴
 - ・ 自分で自分に対して行う訓練
 - ・ 困難さを増していく梯子をたどる道行き
 - ・ 内的挑発、他の者への挑発
 - ・ 自分に対して行使する統御（自分を制御し、あらゆる誘惑に対して我関せずと思える統御の点に達すること）
 - ・ 身体の拒否ないしはキリストとの同一視

↓

司牧の構造との差…

司牧：恒常的に服従、意志のみを放棄、個人の操行を世界へ繰り広げること、服従が意味するもののなかに、他の物との競り合いがないこと（あるのは、恒常的な謙譲）

- ・ (2)共同体：牧者の権威を拒否、提示されてきた神学的・教会論的な正当化を拒否するという理論的基礎をもとに成り立っている。

例) フスやウィクリフの指摘

牧者は、致命的な罪を犯した状態にあるだけで、信徒たちに対してもちうる権力をすべて宙吊りにされている。

致命的な罪を犯した状態のある者に服従し、法に対して自分自身忠実でない牧者に服従すると、自分も異端になってしまう！

例) 司祭についての指摘

司祭…洗礼を施すことで、これこれの者を共同体に入らせることができる。

→この権力が、宗教的共同体で問いただされてきた。

子どもの洗礼拒否=意思に基づく洗礼の提唱など。

↓

共同体の形成は、司祭と一般信徒という二項性を抹消していることによって特徴づけられる。

共同体の構成員全員のあいだに、絶対的な平等性があるとする原則もみられる。=誰もが司祭、誰もが牧者。

→同時に、相互的な服従関係もみられた。

=相手が神自身であるかのように相手の命令に従うこととする取り決め。

・ (3)神秘主義：

神秘主義においては、魂自体がみられる。

→魂は神によって自らを見、自らにおいて神を見る。

神が魂に直接啓示する。

→真理を知る者から真理を教わり伝達する者という真理の伝播から逃れる。

神秘主義において、無知は1つの知。

→司牧制を特徴づけていた教えの形とは異なっている。

直接的な交流がある。

→牧者による魂の指導ではなく、神と魂の対話

・ (4)聖書：

司牧制における本質的なもの…牧者自身の現前・教え・介入・言葉

聖書とは、それだけで語るテキスト=司牧による中継ぎを必要としないテキスト

→中世における反操行の一大テーマが、聖書への回帰。

・ (5)終末論的信仰：

牧者の役割を失格させるやり方=時代は終わった、神が群れをあらためて集めるために間もなく戻ってくることを断言すること。

神こそが群れをあらためて集めるためにやってくる真の牧者=今いる牧者たちは解雇できる！

神が配分を行い、群れに食料をあたえ、群れを導いてくれる！

↓なぜ、このように5つの運動を語ったかということ…。

5. 中世における反操行運動の発展にみられるテーマ(p263-p265)

・ 発展のすべてに5つの根本的テーマがみられることを示したかった。

・ (1)終末論のテーマ

・ (2)聖書のテーマ

・ (3)神秘主義のテーマ

・ (4)共同体のテーマ

・ (5)修徳のテーマ

↓ここから言いたいのは、

①キリスト教は、現実の司牧的組織においては修徳的宗教ではなく、共同体の宗教ではなく、神秘主義の宗教ではなく、聖書の宗教ではなく、終末論の宗教ではないということになること。

②これらのテーマは明らかにキリスト教にとって、一般的に言って外的なものなどではないということ。

③司牧的権力という視点を採ったのは、16世紀以降発展することになるあの統治性の背景を見出すためだということ。

6. H松の疑問

神秘主義における知について：

P261に、神秘主義における知のあり方の説明があるが、これは啓蒙と同じイメージで捉えてよいのだろうか？啓蒙と、司牧制における「指導」の違い??